

## 東京女子高等師範学校における天体暦計算動員の概要と背景

### The Student Mobilization for Astronomical Calculations at Tokyo Women's Normal School

航空技術とそれを支える天体暦計算は 20 世紀に目覚ましい発展を遂げ、国境を超えた人・物・情報の移動はますます盛んになった。だが、それらの技術・科学が戦争に用いられたことにより、第二次世界大戦では世界各地の空を多数の偵察機・爆撃機等が縦横無尽に飛び交い、未曾有の被害をもたらした。

じつは、お茶の水女子大学の前身である東京女子高等師範学校もまた、そうした「科学と戦争」の歴史と無関係ではない。東京女子高等師範学校では理科 3 年生 50 余名が昭和 19 年 10 月から昭和 20 年 6 月まで軍用機のための天体暦計算に動員されている。女学生らは米軍の爆撃機による空襲の恐怖にさらされながらも、この期間ほぼ毎日、海軍水路部の指導のもと暦計算に従事していた。

なぜ東京女子高等師範学校の学生たちが軍用機のための天体暦計算に動員されたのか、学校側はこの動員にどのような形で協力したのか、そして、なぜ終戦を待たずして彼女らの動員は解かれたのか。お茶の水女子大学に伝わる 2 冊の『水路部日誌』から、東京女子高等師範学校における天体暦計算動員の概要とその背景を読み解いてゆく。

馬場幸栄（一橋大学）